

会報獅子の如く

発行責任者 木村信彦  
編集者 石田房一

# 獅子の如く

吉祥院六齋歴史研究会  
獅子の如く

## 吉祥院六齋念仏踊り／吉祥院天満宮 “歴史”

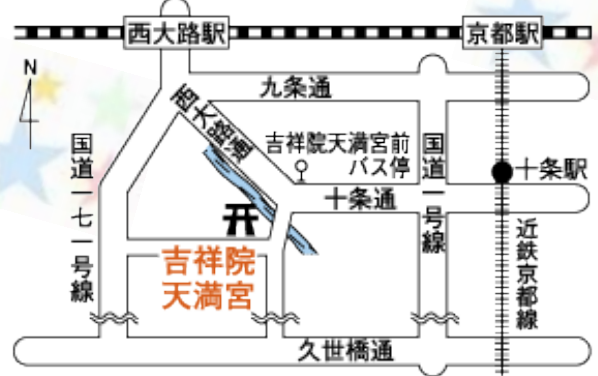
### 【吉祥院六齋念仏踊り “歴史”】

吉祥院六齋念仏踊りは、吉祥院天満宮の春季（4/25）・夏季（8/25）大祭に吉祥院六齋保存会によって奉納されます。

六齋念仏は、鉦や太鼓ではやし、念仏を唱えながら踊る地域の民俗芸能です。

六齋念仏の歴史は、平安時代中期に「踊念仏」で知られ、鎌倉時代に西方寺を中興した空也上人くうやしやうにんが始めたとも言われています。

ちなみに、六齋念仏の中でも笛などの楽器を用いて、娯楽要素の強い六齋念仏は「芸能六齋」とも言われています。



吉祥院六齋保存会は、平安時代後期に吉祥院天満宮勅祭で獅子舞を奉納したことが起源とも、1582年（天正10）の山崎の合戦で豊臣秀吉に敗れ、吉祥院地域に逃れてきて討たれた明智光秀の残党を弔ったのが起源とも言われています。

吉祥院六齋保存会の演目には、お月さん、四つ太鼓、獅子と土蜘蛛つちくもなどがあります。



演目（獅子と土蜘蛛）

現在、六齋念仏には芸能色がほとんどなく宗教色が強い干菜寺系「念仏六齋」と芸能色が強い空也堂系「芸能六齋」があります。

ただ空也堂系には宗教色が強い念仏六齋もあります。

なお六齋念仏は1ヶ月に6日（8日・14日・15日・23日・29日・30日）ある忌み日・六齋日に行われたことから名付けられました。



2015.9.27 呉竹文化センターでの講演会の様子  
地域の伝統文化との出会い（吉祥院六齋念仏踊り）

### 【吉祥院天満宮 “歴史”】

天神さんと親しまれている吉祥院天満宮は、794年（延暦13）桓武天皇による平安京遷都の際、菅原道真の曾祖父・菅原古人が天皇から賜って邸を構えた場所です。

その後、道真の祖父菅原清公が遣唐使として唐に向かう際に嵐に遭ったが、吉祥天女の靈験によって難を逃れ、菅原家では吉祥天を信仰するようになり、自邸内を吉祥院に改めました。

なお、道真が左遷された大宰府で亡くなり、吉祥院に聖廟を築いたが、934年（承平4）朱雀天皇の勅願により、怨霊鎮魂の為に社殿を築き、道真の霊を祀りました。



岩見重太郎と妖怪変化



吉祥院天満宮



獅子基盤上り



### 【吉祥院天満宮 “祭事”】

- 1月 1日 歳旦歳
- 1月 15日 爆竹祭（大とんど）
- 2月 3日 節分祭
- 4月 25日 春季大祭（六齋奉納）
- 6月 1日 雷除祭
- 6月 25日 菅公御誕辰祭
- 6月 30日 夏越の大祓
- 8月 25日 夏季大祭（六齋奉納）
- 10月 13日 付近の日曜日  
例祭（秋祭）湯立神樂  
火焚神事

